

令和8年度		昭島市立玉川小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)中間報告									
学校教育目標		(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題解決を図る子 (情) 自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きようとする子 (意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子 (体) 自らすすんで心と体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	○生涯にわたって学び続け、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な他者と協働して問題解決を図り、豊かな人生を切り拓き、民主的で持続可能な社会の作り手となる人間を育成する学校								
				【目指す児童・生徒】	○多様な人々と協働して問題解決をするために、主体的に物事に関わる、『チャレンジ精神』を発揮できる子の育成								
				【目指す教師像】	○児童一人一人が、「学校は失敗するところ！ 教室は間違えるところ！ 授業は自分たちが主人公！ 誰一人取り残されない！」と、確信できるように働きかける教師								
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	割合		評価	成果指標		評価	取組の進捗状況	今後の方向性	
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題解決を図る子 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業づくりの基本の20項目をまとめた「玉小授業力スタンダード」に基づき、授業改善を行う。	「玉小授業力スタンダード」を20項目の5割を達成した教員	60%以上	4	4	自ら進んで調べたり、考えをまとめたりしている児童	70%以上	4	3	玉小スタンダードの20項目内容については、年度当初に校長講話で内容を確認するとともに、授業観察、校内研究と様々な授業設計の場面で重点項目を意識し、自己申告に記入することによって、70%以上の達成率となった。	児童の成果指標が67%と教員の取り組み指標に比べると若干低い。すすんで調べ、考えをまとめる項目を教員が達成できるように課題の項目を共有し、重点化を図る。
					50%以上	3			50%以上	3			
					40%以上	2			30%以上	2			
					40%未満	1			30%未満	1			
豊かな心	(情) 自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きようとする子 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳的諸価値について、「価値・人間・他者」理解を深め、自己の生き方を見つめ直す道徳科授業の充実を図る。	互いを認め合う道徳授業を行い、思いやりの心をもって行動できる児童を育成する。	道徳諸価値を意識して道徳科授業を行っている教員	80%以上	4	4	友達の心を傷つけることを言ったり、からかったりしない児童	70%以上	4	3	1学期の授業観察を担当全員が道徳で行い、価値理解、人間理解、他者理解について考えを深めている。2学期以降「道徳授業データベース」に実施した道徳授業の振り返りを記録することで、中心発問や自己を見つめる時間の記述について指導を見つめ直すことができている。	「道徳授業データベース」に授業記録を蓄積することで、同価値項目のつながりや、前学年での指導を授業に活かしていくことを目指す。
					70%以上	3			50%以上	3			
					60%以上	2			30%以上	2			
					60%未満	1			30%未満	1			
豊かな心	チーム玉小でアセスメントを丁寧に行い、いじめ・不登校・自殺等の未然防止、早期解決を図る。	「玉小学級力スタンダード」に基づき、学級経営改善を行う。	児童の事を毎日ほめている教員	児童の事を毎日ほめている教員	80%以上	4	4	自分は学級でよさを認められていると答えた児童	80%以上	4	3	①不登校・不適応傾向にある児童について、アセスメントシートを作成し、毎学期末に状況や有効な手立てについて記録し、組織的に児童理解を深めている。 ②5月・7月に児童を対象に「玉川小学級力スタンダード」の調査を行い、児童と結果を分析することで学級の良さや課題を共有し、学級づくりに活かしている。	①12月・3月にアセスメントシートを更新し、支援を継続的に行えるように次年度に引き継ぐ。 ②12月・2月に「玉川小学級力スタンダード」調査を行い、分析結果を学級づくりや学年経営に活かす。
					70%以上	3			60%以上	3			
					60%以上	2			40%以上	2			
					60%未満	1			40%未満	1			
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体をきたえる子 計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	「グッドモーニング60分」の活用において、「見通し」と「振り返り」を行う。	活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員	80%以上	4	4	「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童	70%以上	4	3	児童自身が前学期の結果を自分の生活を振り返ることによって、次学期の取組目標を立てられるようなグッドモーニング60分カードにした。それにより、児童に、より具体的な目標を立てさせることができ、児童の生活リズムを長期休業から、2学期へスムーズに移行させることができた。	自分自身の生活リズムの振り返りと見直しができるよう、冬季休業時にも、この取組を実施する。
					60%以上	3			60%以上	3			
					40%以上	2			50%以上	2			
					40%未満	1			50%未満	1			
健やかな体	授業・休み時間を効果的に活用し、自ら楽しみながら体力向上を図る児童を育成する。	教職員も休み時間に校庭に出て、外遊びを児童と共にを行い、共に遊び、模範を示す。	中休みに校庭で児童と活動した教員	中休みに校庭で児童と活動した教員	70%以上	4	4	外遊びをしている児童	70%以上	4	4	教職員も休み時間には積極的に校庭に出て、児童と共に外遊びを行っている。また、鬼ごっこタイムを輪番で設定し、体育館で体を動かしている。教職員が楽しんで遊ぶ姿を見せ、遊び方やルールを実際に示すことで、楽しく、安全な遊び方や友達との関わり方のモデルとなるようにしている。	体育講師による、「表現リズム遊び」、「表現運動」を各学級で2学期に実施し、体を動かすことの楽しさを味わわせる。また、体育委員会の運動遊びの企画も児童中心に行っていく。
					60%以上	3			60%以上	3			
					50%以上	2			50%以上	2			
					50%未満	1			50%未満	1			
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	「昭島市民科」として、生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立て、地域社会に貢献できる児童を育成する。	地域人材を活用した授業を行い、地域と学校が共にWin-winの関係をつくる。	地域人材を活用した授業を行った教員	80%以上	4	4	地域のことが分かり、地域に関心をもつようになったと回答した児童	70%以上	4	4	2年間による校内研究と、内容や外部人材情報の引継ぎがスムーズに行われているため、全学年で外部人材を起用した授業を行うことができている。また、成果として地域に関心をもつ児童も70%以上になっており、内容は興味・関心を引くものになっている。	地域と学校がwin-winの関係になるためにも、さらに参画意識をもてる授業設計をしていく必要がある。
					60%以上	3			60%以上	3			
					40%以上	2			50%以上	2			
					40%未満	1			50%未満	1			
輝く未来	児童が主体的に取り組む活動を意図的・計画的に行い、主権者としての意識を高める。	児童会・委員会・学級活動の充実を図り、主体的態度・学校を創造する態度を育成する。	児童会・委員会・学級活動の充実を図り、主体的態度・学校を創造する態度を育成する。	児童が主体的に取り組む活動を企画・実践した教員	70%以上	4	4	学校や学級のために係や委員会で取り組んでいる児童	70%以上	4	4	児童主体で行事の企画運営が行えるように、行事の1か月以上前に中央委員会で提案し、余裕をもって委員会活動に反映できるようにしている。運動会に向けて7月から体育委員会で全校種目を企画し、9月の中央委員会で各委員会の役割分担を確認した。	2月の展覧会に向けて、10月から中央委員会で提案し、児童の企画を活かせるようにする。鑑賞活動を充実させ、全校児童が自己有用感や所属感をもつことができるようにする。
					60%以上	3			60%以上	3			
					50%以上	2			50%以上	2			
					50%未満	1			50%未満	1			
働き方改革	教職員が働きがいと自らの生活の充実の両立ができる働き方を目指す。	教職員からの服務規律の確保及び、働き方改革を推進する。定時退勤強化月間における残留者を減らす。	週に1回、経営支援主任とコンプライアンス担当から、働き方改革について周知する。	定時退勤強化月間の残留教員	0%	4	3	月に40時間以上の時間外勤務を行った教員	0%	4	1	6月の定時退勤強化月間の残留者を毎週水曜日に確認し、4回の合計で4名で、割合では5%だった。6月の集計では、月に40時間以上の時間外勤務を行った教職員は、33%であり改善が必要である。	各学年、各分掌等で、計画的・効率的に業務を行う。また、各分掌で業務の改善案を検討させ、業務時間外の勤務時間を減らす。
					20%未満	3			10%未満	3			
					30%未満	2			20%未満	2			
					30%以上	1			20%以上	1			